

令和6年度 東京都立南葛飾高等学校（全日制課程）学校経営報告

- I 今年度の教育活動の取組の結果と自己評価（○）と来年度に向けた課題と対応策（●）
II 今年度重点目標の学校経営計画における数値目標と今年度の達成状況（表）

1 学習指導の充実

(1) 基礎学力の確実に身に付けさせる指導を徹底する。

- 習熟度別授業や少人数編成授業については、計画どおり実施した。試験前を中心に、各教科の補習講座や大学生チューターによる勉強会を開催し、生徒の学力定着に努めた。
- 年間を通して英語の基礎講座、応用講座の土曜講習会を15回実施し、毎回30～70名程度の生徒の参加があった。
- 基礎力診断テストの前に3日程度、テスト対策の授業を行った。テストを欠席する生徒が多いため、対応が必要である。
- 朝学習について、Classiの活用や基礎力診断テストとの連携をより一層進める必要がある。

(2) 日本語指導の充実し、在京外国人生徒の学習活動や学校生活を支援する。

- 在京外国人生徒等に向けた支援については、在京生徒支援委員会を中心とした組織的・計画的に支援ができています。
- 日本語能力試験（JLPT）N1に2名（昨年度4名）、N2に5名（同14名）が合格した。
- 6月に「やさしい日本語」、10月に「在留資格」の教員研修を実施し、教員の指導力向上を図った。
- 3学期から、中国語による勉強会を週1回程度行った。毎回4～6名の参加があり、学習意欲の高まりを感じることができた。
- 2学期中間考査以降、定期考査において、全教科・科目で問題文へのルビ振りを行った。
- 昨年度に引き続き、インターンシップや募集活動での通訳ボランティアなど、在京外国人生徒等が活躍する機会を設け、自己肯定感や帰属意識を高めることができた。
- 在京外国人生徒等の言語能力を日本語と母語の両方でとらえることで、個々の生徒の状況に応じた目標設定、指導方法、評価方法の工夫を進めていく。外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLAを導入を進めるため、先進校視察や教員研修を行っていく。

(3) 主体的・対話的で深い学びを実現する、組織的な授業改善の取組を推進する。

- 若手教員育成研修による研究授業を中心に研究授業24回、研究協議3回を実施した。採用3年以内の教員の授業力が確実に向上している。
- さらに授業改善を進めるために、授業研究を組織的に実施する場を整備する必要がある。先進的な授業実践を共有したり、授業改善の具体的方法について議論したりする場を設けたい。
- 授業の目標の明示ができていない授業がまだあることは大きな課題である。また、授業の終わりにまとめと振り返りができていない授業があることも課題として残った。

(4) 全ての教科・科目において、探究的な学習を取り入れる。

- 総合的探究の時間は、年間計画を作成して実施することができた。1学年は、9月から「葛飾区をよくする」をテーマにグループ探究に取り組み、3月に発表会を実施した。3学年は、4月より個人探究に取り組み、12月に発表会を行った。
- 12月にDXチャレンジDAYを開催し、大学による講座22とDX漫才、DXアイデアコンテストを行った。3月の修了式に、コンテスト優秀者3名を表彰した。
- 各教科・科目の1年間の活動の中で、必ず探究活動または探究的要素を授業内で取り入れることとした。半数程度の教員が、調べて発表することや資料を読んで討論することなど、探究的要素をとり入れた授業を行ったことは大きな成果である。
- 令和7年度も引き続きすべての教科・科目に探究活動または探究的要素を取り入れ、探究活動を教科横断

的な取組としていくことが課題である。

(5) 社会で必要とされる力を身に付けさせる学習を推進する。

- 学校行事、生活指導、学年行事、「保健」「家庭総合」などの教科活動、養護教諭による活動等、様々な活動をととして、社会で必要とされる力を身に付け取組を行った。
- 生徒間の人間関係の調整に相当の配慮が必要となる事例がみられる。ソーシャルスキルトレーニングやレジリエンスを高める取組、心理教育等、事前指導を充実させていく必要がある。

項 目	項目	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
(1) 全員進級、全員卒業（進級率 100%、卒業率 100%）を目指す。	進級率 卒業率	96.3% 94.9%	95.3% 88.0%	96.6% 88.6%
(2) 研究授業及び研究協議会を年間 10 回以上実施する。	研究授業 研究協議会	28 回 6 回	24 回 4 回	24 回 3 回
(3) 学校評価アンケートで「学校の授業は、わかりやすく工夫されていますか」とする生徒の割合を 90%以上とする。	生徒	87.5%	81.5%	79.6%
	保護者	82.2%	82.2%	76.6%
	教員	100%	94.1%	88.2%

※進級率は、1・2 学年の全進級者数を 1・2 学年に全生徒数で割ったもの。

※卒業率は、卒業生数を卒業学年の 3 年間の合計生徒数(入学者数+転編入学者数+原級留置による入り数)で割ったもの

2 進路指導

(1) 高い志をはぐくみ、目標に向かって努力する生徒を支援する進路指導を推進する。

- 学年団を中心に、生徒一人一人の進路希望を実現するためによく努力した。特に 3 学年担任と進路指導部が連携して、出願支援、面接指導、小論文指導等に粘り強く取り組んだ。
- 学校評価アンケートの進路指導に関する項目の肯定的割合が、生徒、保護者、教員とも減少している。特に教員の評価は、令和 5 年度から 20.6 ポイント減少して 73.5%となっている。進路指導部と学年の情報共有や
- 進路決定率 86.1%となり、前年度から 7.8 ポイント減少した。これまで、総合的探究の時間に行っていたキャリア教育の一部ができなかったことがあり、総合的探究の時間の中で行う個人やグループによる探究活動と進路に関するキャリア指導とのバランスをとることが課題である。

(2) 3 年間を見通したキャリア教育体制をより一層充実する。

- 進路指導については、キャリア教育年間計画に基づいて、総合的探究の時間、人間と社会、ロングホームルーム、学期末の特別授業期間等を利用してほぼ計画とおりに実施することができた。
- 進路指導に関する学校評価アンケートの結果が大きく悪化している。総合的探究の時間における個人探究と進路探究のバランスに課題を残した。

(3) 大学進学、看護系専門学校、公務員就職等を希望する生徒への支援体制を強化する。

- 大学へ進学した者は 71 名であり全体の 34%であった。学力試験による大学受験をした者は 25 名であり、うち 15 名が大学進学を決めている。専門学校への進学は 93 名（44%）、就職した生徒は 22 名（10%、活動中 5 名を含む）であった。就職者のうち 2 名は公務員（23 区、自衛隊）に合格した。
- 在京生への支援を行う中で、進路に関する相談は日本語では困難であることが分かった。進路に関する 2 者面談、3 者面談において、必要に応じて通訳を入れるなどの対応を行う必要がある。
- 大学進学を希望していたが、不合格となり専門学校へ変更する生徒が散見された。生徒一人一人の進路希望を実現するために、より一層、丁寧な指導を行う必要がある。

項 目	項目	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
(1) 卒業時の進路決定率を 90%以上とする。	進路決定率	93.3%	93.9%	86.1%
(2) 学校評価アンケートで「進路学習や進路指導が進路選択の参考になった」	生徒	89.0%	90.9%	86.3%
	保護者	86.6%	84.1%	80.5%

とする生徒の割合を90%以上とする。	教員	82.5%	94.1%	73.5%
(3) 4月当初に大学・短大へ進学を希望する生徒の大学・短大への進学率を100%とする。	4年制大学進学者	74人	86人	71人
	一般受検者	25人	22人	25人
	受験準備者	10人	13人	9人

3 生活指導

(1) より良い学校生活の在り方を生徒とともに考え、実現していく組織的な生活指導を推進する。

- 頭ごなしに叱る指導ではなく、理解して納得させる指導を行うことは定着している。生徒指導部と学年が協力して指導にあたり、生徒に変容がみられる指導を行うことができています。
- 6月と12月に校則に関するアンケートを実施した。来年度5月の生徒総会に向けて、校則についての校内議論を行っていく。
- 委員会活動を活性化して、生徒が自分たちの意見を出し合い、対話によって学校生活のルール作りができるようにしたい。生徒が積極的に自治活動に参加し、民主主義を経験することができるようにしたい。

(2) 規則正しく、安全安心な学校生活を送るための指導、危険を予測し回避するための指導を推進する。

- セイフティー教室、交通安全教室、薬物乱用防止教室など、年間計画に位置付けて計画的にいます。
- 自転車通学時におけるヘルメット着用については、改善を進めることができなかった。次年度、自転車通学の許可時における指導を強化してヘルメット着用の定着を図る。
- 遅刻については、学年担任が粘り強い指導を行っているが、年間の延べ遅刻数は16,576回（一人平均24.9回）であり、昨年度とほぼ同数となり改善が見られなかった。学校全体で組織的・計画的に取り組み、年度当初から遅刻をさせないための指導を組織的・計画的に行っていく。

(3) 教育相談を推進して、生徒の心を育てるための指導や支援を充実する。

- 毎朝の校門でのあいさつ運動は年間をとおして行った。サッカー部の生徒も参加して、あいさつ運動を盛り上げた。
- 自立支援委員会を中心に、外部専門家を加えたケース会議の開催、教育相談を加えた生活指導、担任とSC・YSWの連携強化など、組織的な教育相談活動により生徒への支援を円滑に行った事例が多く見られた。次年度は、SCが週2日、YSWが週1日、特別支援心理士が週1日の配置となる。これらの専門家を活用して、個に応じた生徒支援をより一層推進していく。
- 生徒の聞こえ方に関する研修会を開催した。様々な生徒の抱える課題に対する対応を学ぶ良い機会となった。
- 発達障害のある生徒への対応を協議する中で、まだ理解が進んでいないと考えられることがあった。発達障害や生徒の課題の捉え方について、より一層、研修を進めていく必要がある。

項 目	項目	4年度実績	5年度実績	6年度実績
(1) 学校評価アンケートで「教員は相談に親身に対応している」とする生徒の割合を90%以上とする。	生徒	92.7%	88.3%	90.6%
	保護者	90.7%	90.4%	83.1%
	教員	95.0%	100%	91.2%
(2) 学校評価アンケートで「時間を守って行動していますか」に否定的な回答をする生徒の割合を10%以下とする。※	生徒	11.4%	12.9%	6.0%
(3) 学校評価アンケートで「身だしなみに関するルールを守っている」とする生徒の割合を90%以上とする。	生徒	91.5%	94.0%	89.7%
(4) 生徒の遅刻総数4500以下を目指す。	遅刻総数	11,426回	16,521回	16,576回
	一人当たり	17.0回	26.3回	24.5回

※ 令和5年度までは、質問が「時間を守ることに積極的に取り組んでいる」であった。

4 特別活動、部活動、その他

(1) 体育祭、文化祭(南葛祭)等の学校行事を充実させる。

- 体育祭、文化祭の満足度についての肯定的回答は、生徒・保護者とも高い割合を示している。
- 文化祭の満足度について、教員の肯定的回答は昨年度に比べて大きく減少した。今年度の文化祭は、生徒の活動に制約が多かった。生徒の活動を支援する視点から、行事の枠組みを作ることが大切である。

(2) 生徒会活動を活性化し、生徒の意見を代表し、課題解決に向けて活動するよう指導する。

- 生徒会活動に対する満足度についての肯定的回答は、生徒、保護者、教員とも大きく減少した。次年度以降の生徒会活動の在り方を考え直す必要がある。

(3) ホームルーム活動、委員会活動を活性化し、身の回りの課題を生徒自身の力で解決する態度を養う。

- ホームルーム活動は、年間計画を立て計画的に行うことができた。
- 委員会活動は、美化委員会、保健委員会など、学校生活の一端を担って活発に活動する委員会が多くなった。
- 委員会によって、活動内容の質と量に差が見られた。教員が指導体制を見直し、目標を明確した上で、計画的に活動する必要がある。学校生活の改善や行事的活動を核に企画・運営について生徒に考えさせ、自主的運営ができるよう支援したい。

(5) 部活動を推進し、目標に向かって努力する心をはぐくむ。

- 部活動加入率は40.5%となり、昨年度から2.5ポイント減少した。個々にみれば、活発に活動している部活動もあるので、生徒の参加意識を高め、部活動を活性化していきたい。
- 今年度、JRC愛好会、囲碁将棋愛好会が発足した。

(6) 部活動、委員会活動、ホームルーム活動を通じたボランティアや地域貢献を推進する。

- サッカー部、陸上競技部、生徒会等を中心に、多くのボランティア活動に参加している。また、1学年全員が葛飾ランフェスタ運営補助員としてボランティア活動に参加し、好評を得た。
- 次年度も、地域ボランティア活動への参加を積極的に進め、生徒の自己有用感、自己肯定感をより一層高めていきたい。

(7) その他

- サッカー部の生徒4名が、高校生海外派遣研修によりフランスへ派遣された。派遣団の中で積極的に活動し、成果発表会において派遣された高校生を代表して発表を行った。
- 学校評価アンケートの「学校生活が楽しく充実している」に対する生徒と教員の肯定的回答の割合が、大きく減少している。
- 今年度、退学10名(昨年度15名)、転学10名(昨年度14名)であり、昨年度に比べてやや減少した。原級留置きの8名は、3名が転学、5名が退学した。
- 昨年度と同様、人間関係のトラブルから登校が困難となる例が多かった。不登校防止、中途退学・転学防止のため、学校生活における生徒の心理的安定性を高める取組を強化していく必要がある。

項 目	項目	4年度実績	5年度実績	6年度実績
(1) 生徒の部活動加入率65%以上を達成する。	加入率	54.0%	43.0%	40.5%
(2) 学校評価アンケートで「学校生活が楽しく充実している」とする生徒の割合を90%以上とする。	生徒	93.2%	89.2%	87.3%
	保護者	91.5%	89.6%	89.6%
	教員	62.5%	82.4%	55.9%
(3) 学校評価アンケートで「今年度の体育祭が満足できた」とする生徒の割合を85%以上とする。	生徒	90.7%	94.2%	89.7%
	保護者	77.8%	88.8%	85.4%
	教員	97.5%	97.1%	90.9%
(4) 学校評価アンケートで「今年度の南葛祭が満足できた」とする生徒の割合を85%以上とする。	生徒	88.6%	94.9%	90.0%
	保護者	76.1%	88.9%	84.4%
	教員	95.0%	94.1%	76.5%

(5) 学校評価アンケートで「本校での生徒会活動は充実している」とする生徒の割合を80%以上とする。	生徒	80.8%	85.5%	75.1%
	保護者	76.9%	83.4%	72.3%
	教員	67.5%	85.3%	55.9%

5 学校運営

(1) 校内の整理整頓を徹底して行い、学習環境、執務環境の美化、整備を進める。

- 安全衛生委員会を月1回定例とし、対面による開催を4回実施した。
- 5S運動を呼びかけ、引き続き整理・整頓を行った。粗大ごみの廃棄を2回実施して、旧校舎から持ち込んだ什器類の廃棄は進まなかった。今後も不要物の廃棄はさらに徹底的に進めていく。
- 生徒用の机・イスの計画的な入れ替えに取り組むことが課題である。

(2) 組織的、自律的な学校運営を推進する。

- 企画調整会議を年間35回、職員会議12回を実施して、組織的な学校運営を行った。職員会議は、Teamsによるリモート開催とし、ペーパーレス化が定着している。
- 学校運営連絡協議会を3回開催した。学校運営の改善を進めるため、学校の課題に対する専門性を有した人材を協議委員に委嘱した。学校アンケートを実施して集計分析し、学校運営の改善に資することができた。

(3) 経営企画室の学校経営への参画を推進する。

- 校内補正予算を廃止したことにより、学校経営計画に基づく校長の経営判断による予算執行が容易となり、学校運営の機動性が高まった。
- 経営企画室職員に休職者が出たため、経営企画室の機能を維持することが困難な時期があった。

(4) 服務事故防止研修を実施し、服務事故の防止と体罰の根絶に努める。

- 服務事故防止と体罰根絶のため。年間3回の服務事故防止研修を実施した。服務事故防止研修や体罰根絶の取組は、年間をとおして繰り返し実施していく。

(5) 授業公開、保護者会、学校行事等の公開を通じて、開かれた学校運営を推進する。

- 年間2回の授業公開、全学年合計で年間5回の保護者会等を実施した。体育祭、文化祭、年3回の授業公開週間により、学校の活動を保護者に公開することができた。
- 葛飾区の小中学校新規採用教員の初任者研修（課題別研修）を本校で実施した。

(6) 大規模災害への備えや防災対策について、組織的な体制を整備する。

- 防災教育推進委員会を年2回開催し、消防署や葛飾区と連携しながら防災教育を進めることができた。防災避難訓練は、年4回実施した。消防署と連携して、起震車体験や初期消火訓練を含めた防災避難訓練を実施できた。
- 次年度も、積極的に警察署や消防署等の関係諸機関と連携する。災害の実際に即した実践的訓練となるよう内容を工夫する必要がある。

(7) ライフワークバランスを推進する。勤務時間外在校時間の短縮に努め計画的な休暇の取得を促す。

- 職員の在校時間の管理を適正に行い、長時間勤務の是正に努めた。
- 教員の年休取得日数は一人平均17.9日、夏休の取得率は99.5%であった。

(8) 生徒募集・広報活動に組織的、計画的に取り組む。

- 入学者選抜の応募については、目標を達成することができた。
- 生徒募集は、学校見学会9回、体験授業3回、学校説明会3回、個別相談会2回を実施した。また、外部説明会に6回参加した。本校に直接来校した中学生と保護者は、783組1,520名であった。
- サンドル相談会(5/12)、かつしか進路フェア(8/3)を本校にて実施した。両日合わせて約6,000名の来場者があり、本校の認知度を高めることができた。
- 都立学校を取り巻く募集環境が困難さを増す中、本校を志す生徒に学校の情報をより的確に伝えていく必要がある。生徒にとって魅力のある学校づくりを推進するとともに、広報活動をより一層充実させていく。

項 目	項目	4 年度実績	5 年度実績	6 年度実績
(1) 推薦 4.00 倍以上、学力前期 1.40 倍以上を目標とする。	推薦 前期 後期	2.62 倍 1.12 倍 2.00 倍	3.28 倍 1.35 倍 1.18 倍	4.07 倍 1.40 倍 1.40 倍
(2) 学校公開、学校説明会、個別相談会、学校見学会での来校中学生の実数 600 名以上、のべ 1000 名以上を目指す。	中学生数 のべ人数	833 人 1,810 人	803 組 (ー)	783 組 1,520 人
(3) 全教員平均で夏休取得率 100%、年休取得 15 日以上を目指す。	夏休 年休	92.9% 17.6 日	98.1% 17.5 日	99.5% 17.9 日